
二つの世界

椿姫

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

二つの世界

【Nコード】

N0535J

【作者名】

椿姫

【あらすじ】

ある日、一護の前に水色の髪をした少女が現れた。「お願い……あの人を、助けて……！」その言葉と共に斬られた一護はIF イフの世界へと辿りつく。そこは死神も破面も、幽霊さえいない世界だった。ルキアや恋次、皆が少しづつ違う世界。だが、どこもおかしくは無く、平和で平穏な世界。元の世界へ戻るか、この世界へ残るか。一護は選択を迫られ 選ぶ。一護はどちらの世界を選ぶのか。そして少女は何者なのか。

第一話 謎の少女

月の美しい、静かな夜だった。俺は何か不思議な気配を感じ、死神化して町を駆ける。死神とも虚^{ホロウ}とも違う。曖昧で酷く不安定な……だが、どこか力強くもあつた。

その人物は蒼^{あお}のようでも、青のようでもある不思議な水色の髪をした俺と同じ歳ぐらいの、何処かの神話の様な服を着た女の子だった。目元に血色の二本の×の様な刺青^{いれずみ}がある。

不意に、彼女が俺を見る。ドキリとするほど綺麗に澄んだ空色だった。

お願い……。

「!?!」

声が聞こえた。鈴を転がしたような綺麗な声。気が付くと女の子は俺の目の前に来ていた。

お願い……あの人を、助けて……! 止めて……!!

その言葉と共に、俺は彼女に斬られた。

第二話 IFの世界

『…う…いち…』

ゆさゆさと、体を揺さぶられる。

誰だ？

俺を呼んでいるのは？

「ん…っ」

「あ、やっと起きた」

眼を開けた瞬間見えたのは、煌めく様な金髪と笑顔だった。

「まったく…ジャングルジムの上から落ちて意識不明何て…心配したんだぞ？」

「お前…」

誰だ？ こいつ？ 見た事ある…。

否、違う。こいつは、テストじゃないか。小学校の頃からの友達…
…だろ？

あれ？ 何だ？ おかしい。おかしいんだ…俺は。俺は、こいつが
“敵” だったのを知っている

「どうしたんだ？ 一護」

「いや、なんでもねえ」

「…そう。帰る。もう夕方だし」

「そうだな」

それから、いつもの十字路で別れて、それぞれの帰路につく。
いつも通りだ。なんでもねえ、平穏な日常の一幕。

「おかしいのは……俺なのか？」

そつだ。俺は普通の高校一年生で、死神代行なんかじゃない。
……
そこで気付いた。

「しに……が、み……代行……？」

何でだ？ 何でそんな言葉が？

「……俺は、ここじゃない世界に居た……」。

俺は、この世界の、人間じゃない……！？」

次の日。俺は何時ものように家を出る。

結局、昨日の事は一晩中考えても答えは出なかった。夢のようなものだった可能性もある。

でも、それでも。

「あれは、夢じゃねえ…」

ハッキリとした確信はねえけど。あれは夢じゃなかった。

「よ、おはよ。一護」

「ん。グリムジョーもおはよう」

……。「あっち」の世界ではグリムジョーがルキアを殺そうとした

……。。「あっち」の世界じゃ、グリムジョーは敵だった。

「こっち」「じゃ俺の無二の親友。

その違いは一体ど

「……一護さん。何だか、元気ないね。どうかしたの？」

「いや、別の何でもねえよ。“ミーシエン”」

ミーシエン？

グリムジョーの隣を歩いているミーシエンを見る。

グリムジョーよりも濃く、明るい空色の腰まで届く髪。

グリムジョーと同じように、見る角度や光の加減で色を変える青の瞳。

…そうだ、こいつはグリムジョーの妹のミーシエンじゃねえか…
…。

いや……『ミーシエン・ジャガージャックは「あっち」の世界には存在していなかった』？

「……マジで大丈夫か？　一護。何か静かだぞ？」

「俺は何時もそこまで騒がしくねーよ」

そのまま、その日、一日は何とか何事もなく終わった。

「その日の夜」

『お……う お……う ……』

「ん……っ」

『王ッッ……!!』

「!!」

誰かに呼ばれた。ここは

「斬月の、世界………?」

『王! 聞こえるか!?!』

俺に似た、だがどこか違う声。

声はビルの一つ、その窓から聞こえていた。

「っ、お前は……!!」

『無事か!?! 王!』

俺が窓を覗き込んでいるのと同じ様に、真っ白な自分がこちらを覗き込んでいた。

「何で、お前が!」

『今は、俺の事なんてどうでもいい! それより、無事か!?!』

「あ、ああ。なんともねえ」

白い自分の気迫に押され、答える。
すると、白い自分は安堵したように言う。

『良かった…。怪我何かしてたらどうしようかと……………』
「っ…………！」

何で、何で俺の心配なんかすんだよ…ッ。お前は俺の体を狙って
んじゃねえのかよッ！

『王。おかしいんだ…、そっちの世界へ行けない…！
俺と王は繋がってる。王が行ったなら、自動的に俺も行ける筈なん
だ。でも行けない。斬月も行けない。
多分、誰かが妨害してるんだ。俺らが行けない様にしてんだと思う』

当たり前のように、そんなを言う。

「何で……………」
『？』

「何で、お前がそんなこと知ってたよ！ お前は俺の体を狙って
んじゃねえのかよ！
何で、俺を心配してる様な事言うんだよ！…！」

知らず知らず、叫んでいた。

「答えるよ！ お前は一体何なんだよ！ 何かがしたいんだよ…！」

「こっち」の世界で、こいつに逢った。級友で、親友だった。当
たり前のように、俺の隣で笑ってた。

『……………「ごめん…」』

謝った。こいつは、泣きそうに苦しそうに。俺に 謝った。

『ごめん…ッ、お前にはまだ教えられない……………。』

でも、一つだけ言える。俺は、いつ何時どんな状況でも、王の

一護の味方だから』

「……………分かった。」

こいつは、嘘は言ってない。そう思う。理屈も何もなく。なんとなくだが、そう思う。

「取り敢えず、情報交換しようぜ」

『分かった。』

「こつち」の世界で、一護は誰かに斬られた後、意識不明でずっと眠ってる。犯人はわかってない。でも、斬り口が綺麗で急所を外してるから、あの浦原って奴は、相当の手誰でしかも王を殺そうとして斬ったんじゃない。って言ってる』

「そっか……………」

「こつち」じゃ、俺は普通の高校生やってんだ。それに、俺は“この世界に居たであろう俺”の記憶を持つてる。破面達も敵じゃなく味方…っていうかクラスメートとかだった」

『……………』

あいつは暫く黙った後、訊いてきた。

『何か、変わった事はなかった？』

「変わった事？」

『うん。例えば、“「こっち」に存在しない人間が居た”とか』

“「あっち」に存在しない存在”
居た。

「ミーシェン……」

『え?』

「グリムジョーの妹だ。ミーシェン・ジャガージャック。そいつが居」

『そっちは……ミーシェンが存在してんのか!?!』

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0535j/>

二つの世界

2010年10月10日15時37分発行